

教科標準時数

1015單位時間

現行制度

教科A

教科B

その他教科等



調整授業時数

(1)教科標準時数を下回ることが可能な範囲を検討すべき

教科A

減ずる

教科B,C,...

裁量的な時間

特に必要な
教科等が
ある場合

教科等
D, E, ...

**(2)調整授業時数を別の教科等に
上乗せ可能とすべき**

(3)裁量的な時間に調整授業時数を充てることも可能とすべき

**(4)裁量的な時間の一部を教育の質の向上を
目的とした、授業改善に直結する組織的な
研究・研修等に充てることも可能とすべき**

(5)調整授業時数を特に必要な教科
の開設に充てることも可能とすべき

調整授業時数制度の仕組みの方向性（イメージ）

1

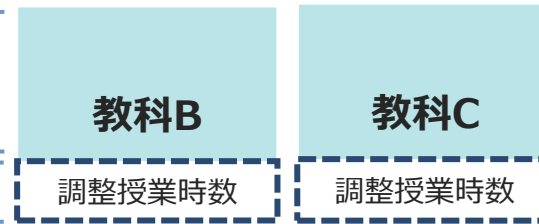
- 標準授業時数が35コマ以下の教科等は調整が可能な教科等（標準を下回って時数を設定してよい教科等）の対象外
- 「総合的な学習の時間」も調整の対象
- 調整後の時数は35コマ以上とする

2

標準を下回って設定可能な時数幅の上限は、時数調整対象の教科等の1割以上で検討

調整後も
最低
35コマ確保

1割以上の
方向



①既存教科等へ
上乗せ

②教科の新設
※教科B・Cと異なる内容を扱う

③「裁量的な時間」に充当

調整授業時数

教科A

新教科

（学校が必要に応じて設定）

（ア）児童生徒の
資質・能力の育成に
特に資する教育活動

（イ）教師の
組織的な
研究・研修等

生み出した調整授業時数の全体から、③「裁量的な時間」に活用する時間を除いた時数で実施可能

年間を通じて計画的に
実施しうる上限を設定

年間を通じて複数の取組を計画的に
実施しうる上限を設定

既存教科等への上乗せ

要件

なし

上限

調整授業時数の中で活用可能な時数の上限を設定せず、調整授業時数として生み出した時数のうち、「裁量的な時間」として活用する時数を除いた時数で実施可能

新設教科

要件

裁量的な時間（学習枠）の要件に加え、新設教科の目標、育成する資質・能力、学習評価の方法が体系的・系統的に整理されていること等の要件を設定

4

学習枠

要件

各教科等の内容に該当しない、もしくはいずれか一つの教科等に当てはめるのが困難な学習活動であること等の要件を設定

類型

- ①個に応じた学習過程の充実に資する取組
- ②学習の素地を高める取組
- ③関係性の質を高め、学習の一層の円滑化に特に資する取組
- ④その他地域等の特色を生かした取組

上限

年間を通じて複数の類型に属する取組を実施することも想定し、適切な上限を検討

研究・研修等枠

要件

学校教育目標・教育課程編成に係る基本方針・年間指導計画等に基づく組織的・計画的な取組であること等の要件を設定

類型

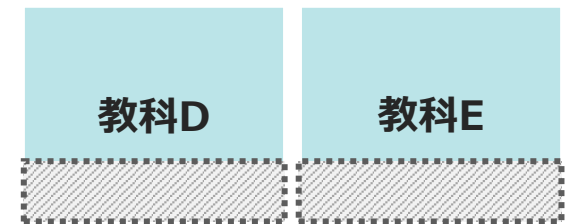
- ①質の高い授業を効果的に実施するための教材研究・授業研究
- ②教師の資質・能力の向上を図るための学校・教育委員会が企画する研修
- ③児童生徒理解の向上など、学習・指導上の課題解決に資する情報共有・協議
- ④学校と地域の連携体制の確保

上限

「学習枠」の上限の内数として設定。年間を通じて計画的に実施することも想定し、適切な上限を検討

3

現行の教育課程特例校で認められる特例



既存教科の内容の組み替え

※教科DとEの内容を扱う

教科DE'

現在の授業時数特例校・教育課程特例校制度は調整授業時数制度に統合し、各学校の判断により実施可能とする

5